

7 キャンパス等充実に関する事項

1 施設・設備・備品等について

本学における施設・設備・備品等の整備については、長期財政計画と各キャンパスの立地条件を踏まえ、以下の整備方針に基づき、整備をおこなった。

教育研究等に係る施設設備に関する整備方針

1. キャンパスコンセプトに基づいた計画的整備
各キャンパスの教学展開や立地条件等の特性を活かしつつ、大学全体として相互に連携するキャンパスを計画的に整備する。
2. 知的創造を生み出すコミュニティ空間の創出
学生と教職員のコミュニケーションを促進し、学習をサポートする空間を創出する。
3. 機能性の確保
教育・研究・社会貢献活動の多様化やユビキタス環境の進展に対応できる施設を整備する。
4. キャンパスアメニティの実現
学生のライフスタイルを考慮した憩いの空間を創出する。バリアフリー、ユニバーサルデザイン、緑化等に配慮し、すべての利用者にやさしい環境を整備する。
5. 地域との共生
地域コミュニティの中心となるキャンパスを実現する。
6. 危機への対応
災害等に対応できる危機対応型のキャンパスを整備する。
7. 安全性の確保
安全・防災のため、計画的に耐震補強工事等を実施し耐久性のある施設を順次整備するとともに、防犯や衛生を考慮した環境を整備する。
8. 省エネルギーの実現
地球環境に配慮し、省エネルギーや省コストを実現する合理的な施設設備を整備する。
9. キャンパス・ファシリティマネジメント体制の整備
長期財政計画の下、土地取得や建物の償却期間等を考慮した総合的なファシリティマネジメント体制を構築し、中長期的な経営戦略として教育研究等環境を計画的に整備する。

1 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

深草学舎のキャンパス環境をより一層向上させるため、次のとおり施設・設備・備品等の整備をおこなった。

● 深草学舎22号館の竣工

深草学舎22号館は、政策学部及び政策学研究科の開設等、深草学舎における新たな教学展開に対応する施設として整備し、2012年9月から使用を開始した。

22号館は、地上4階地下2階（延べ床面積15,215.03㎡）の建物で、地下2階に学生食堂（座席数750席）、地下1

階から地上3階に講義室、地上4階に政策学部教員研究室および大学院共同研究室を配置している。

● 深草学舎1号館の解体及び新1号館（仮称）建築工事の推進

深草学舎1号館は、深草学舎開設後、1964年（第1期工事）に本学が初めて整備した建物で、竣工後48年が経過し老朽化が進んでいることから、2012年11月より解体工事を開始、2013年2月末に工事を完了し、引き続き、2013年3月から新1号館（仮称）建築工事に着手した。新1号館（仮称）は、本学の第5次長期計画「RYUKOKU Vision2020」に示されている学生の主体的な活動の支援や、優れた研究基盤の形成、多文化共生キャンパスの実現等に資するとともに、2015年4月に国際文化学部の深草キャンパスへの移転に伴い必要となる機能を整備した施設として、1号館跡地に建設する。

● 衛生設備の充実

各洗面所にハンドドライヤーの設置と水道栓を非接触型の自動水栓に改修することで、衛生的な環境を整備し感染症の予防をおこなった。本事業は、4年間の年次計画で整備を進め、2012年度で工事を完了した。

● その他施設の整備

5号館の省エネルギー対策として、照明を省エネタイプの照明に交換するとともに、窓ガラス・ガラス扉に遮熱フィルムを貼り、エネルギー消費を抑制した。5号館2階サーバー室の冷房整備を更新、8号館トレーニング室に熱中症対策としてスポット空調機を設置する等の環境整備を実施した。加えて、災害対策として、地下濾過システム（井戸ポンプ）に電源を供給できる自家発電システムを設置し、非常時においても飲料水等を供給できる環境を整えた。

2 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

大宮学舎のキャンパス環境をより一層向上させるため、次のとおり施設・設備・備品等の整備をおこなった。

● 北覺空調設備工事

設置後19年が経過している北覺の空調機を更新し、適切な学修環境を保全した。

● バリアフリー化工事

西覺文学部教務課入口扉及び西覺新棟入口扉に自動扉を設置し、キャンパスのバリアフリー化を推進した。

3 瀬田学舎における施設・設備・備品等の整備

瀬田学舎のキャンパス環境をより一層向上させるため、次のとおり施設・設備・備品等の整備をおこなった。

● 建物群の経年劣化対応改修工事

1号館、青雲館、瑞光館及び基幹設備である中央監視装置・設備に係る、建物本体及び設備関係の劣化や機能低下等に対応するため、適切に修繕・更新工事を実施した。

●食堂・喫茶厨房機器の整備<3年目：最終年度>

瀬田学舎厚生施設（青雲館・青志館・RECホール）の食堂・喫茶厨房機器を更新し、厚生施設の充実を図った。

●理工学部・理工学研究科の教育研究装置及び特別研究設備の整備

理工学部・理工学研究科の教育・研究に使用される「高性能先端材料創製のための微視的構造設計・特性評価システム（マイクロフォーカスX線CTシステム）」を調達・整備した。

●障がい者に配慮した外構整備<1年目：3年計画>

障がい者対応の一つとして、外構に設置している点字タイルを点字ブロックで再整備し、健常者を含めたキャンパス内での安全な移動の手助けをおこなうとともに、インターロッキングの不陸（凸凹）の調整を行い、歩行障害や雨水等による水たまりの改善を図った。

4 その他の施設・設備・備品等の整備(各学舎以外の施設)

●セミナーハウスともいき荘電気整備の更新

経年劣化が進行しているセミナーハウスともいき荘の高圧受電盤及び高圧ケーブルを更新し、安全に電気を供給できる環境を保全した。

●セミナーハウスともいき荘・ともいき国際ハウス自動火災報知器更新工事

経年劣化が進行しているセミナーハウスともいき及びともいき国際ハウスの自動火災報知器を更新した。機器の性能を担保することで施設利用者の安全を確保した。

2 情報システム関係について

今日のICT（Information and Communication Technology／情報通信技術）は、重要な社会基盤となっており、高等教育機関においてもICTの適正かつ有効な活用は必要不可欠となっている。本学では2012年度における情報化にかかる環境整備の事業として、Gmailの関連サービス（「Calendar」・「Drive（Documentからサービス及び名称が変更）」）の提供を開始し、普通教室のマルチメディア教育設備の整備（9月から利用開始）をおこなった。また、ポータルサイトやWebシラバス、Web履修登録等のWebサービスについては、システムの更新をおこない、利用者（学生・教員等）へのサービス向上を図る等、以下のとおり情報化にかかる環境整備を積極的に推進した。

1 基幹ネットワークの整備

●クラウドサービス機能の利用

Gmailの関連サービスである「Calendar」「Drive（Documentからサービス内容と名称が変更）」の提供を

開始した。特に「Drive」は、文書の作成や共有等によく活用されており、共同作業や情報共有が進展しつつある。

●事業継続のための災害復旧システムの構築

学籍情報、成績情報、人事情報、財務情報等の重要データを対象とした定期的なバックアップを行い、このバックアップ媒体を本学以外の安全な保管先に預ける遠隔地保管を開始した。日々更新されるデータの鮮度等を考慮し、2週間に1回の頻度でバックアップ媒体を入れ替える方式としている。

●事務系クライアントPC及びファイルサーバーのリプレイス

本学業務の遂行に必要な不可欠となっているクライアントPC及びファイルサーバー等の業務情報システムを一新した。既存システムの長期利用による不具合や不便を一掃し、業務環境の改善を図った。

2 情報教育環境の整備

●普通教室のマルチメディア教育環境の改善

普通教室のマルチメディア教育設備を整備した。教室規模や利用目的（演習、語学等）に合わせて、短焦点プロジェクター（スクリーン）またはフラットディスプレイを選択し設置した。また、特に要望が強かったブルーレイ・プレイヤー（DVDも利用可）を設置した（一部は複数教室で共有）。これにより、一部を除き全ての教室でコンピューターを用いた多様な授業を可能とした。

3 事務システムの整備

●基幹事務システムのリプレイス

2010年度より開発を進めてきた基幹事務システムについて、2011年度の法人系・研究系システムの全面稼働に引き続き、2012年度は教学系システムを全面稼働した。これにより、各部署で必要とするデータの抽出が容易になる等、業務効率が向上した。

●Webサービスシステムの更新

Webサービスシステムを更新し、「（学生・教職員向け）ポータルサイト」や「Webシラバス」、「Web履修登録」等のサービスについては、処理速度の向上及び基幹事務システムとのシームレスなデータ連携による迅速な情報提供等、利便性が向上した。